

日本女子大学アセスメント・プラン

目的

本学のディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）およびアドミッション・ポリシー（AP）のいわゆる3ポリシーは、大学3ポリシーの他、それを学科の学位プログラムに合わせて具体化した学科3ポリシーと基盤的科目群 DP から構成されています。本学では、各学科の学位プログラムの専門性を重視し、大学 DP の達成度の直接的な評価はせず、学位プログラムごとの学科 DP の達成度ならびに基盤的科目群 DP の達成度を大学共通の方法で評価します。

その達成度評価を学生と教員で共有し、学生はその評価によって自分自身の成長を把握し、教員は評価を授業改善に活かし DP 達成度の向上に努めます。また、評価結果を本学の教育成果として社会に公開します。

ここに示すアセスメント・プランは、本学の学科 DP および基盤的科目群 DP で掲げた学修成果の達成度を、どのような基準と方法で評価し、その評価結果をどのように活用するかの方針を提示するものです。

学修成果達成度の評価および評価方法に関する本学の方針

学位プログラムを構成する科目ではそれぞれ到達目標が定められています。その到達目標は、学科の学修成果（学科 DP）の該当項目をより具体的に設定したものです。そのため、科目の到達目標の達成度の積み重ねが学科 DP の達成に繋がります。科目と学科 DP との繋がりは、カリキュラム・マップとして学生に提示します。

本学では、最終学年での卒業論文、卒業研究および卒業制作の取り組みが、それまでに身につけた知識・技術ならびに様々な汎用的な能力を発揮する場であるという認識のもと、卒業論文、卒業研究および卒業制作、ならびにそれに直接関係する演習科目を学科 DP 達成度評価のためのアセスメント科目として位置づけます。そして、学科 DP に掲げた学修成果に合わせて、具体的な達成度の基準と水準をまとめたルーブリックを学科ごとに定めます（注：学科によっては複数のルーブリックを設定）。そのルーブリックに基づいて学科 DP 達成度を評価し、その結果を教員と学生の間で共有します。さらに、評価結果を学位プログラム等の見直しで活用して達成度の向上に努めます。必要な場合は学科3ポリシーの見直しに繋がります。

一方、学生が学修成果（DP）として提示した力を身につける機会は、学位プログラムだけではなく、その機会は、海外短期研修などのプログラム、サークル活動、社会連携活動・ボランティア活動など多岐にわたります。このような活動や経験をポートフォリオ（マイステップ@JWU）に記録し、そのポートフォリオを学生生活で身につけた力を振り返る際に活用します。

個々の科目の到達目標の達成度は、それぞれの科目の特徴に合わせた様々な方法（小テスト、期末試験、レポート、発表などのパフォーマンスなど）で直接的にあるいは間接的に評価します。それとは別に、全学共通にほぼ全ての科目を対象に授業アンケートを実施し、学生自身による達成度の評価を行い、その評価結果を授業改善や学位プログラムの見直しに活かします。

日本女子大学大学院アセスメント・プラン

本学の大学院においても、大学院3ポリシーを定め、それを具体化した専攻3ポリシーを定めています。専攻DPに掲げる学修成果を達成するため、各専攻ではそれぞれの専門性に合わせた特徴のある学位プログラムを設定しています。専攻DPの達成度は修了時アンケートで学生が自己評価を行う他、修士論文・博士論文中間報告時並びに審査時に「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」を用いた評価を実施し、多角的に達成度を可視化します。個々の科目の到達目標の達成度を測定する指標の一つとして全科目を対象に大学院授業アンケートを実施し、学生自身による達成度の評価を行います。

また、学生の指導、各科目の成績、論文審査の状況、授業アンケート、修了時アンケート等を活用し、3ポリシーの見直し、教育課程の変更等を行います。

達成度評価や学位プログラム運営に関わる主なアセスメントについて、評価内容等を以下の表にまとめます。

名称	実施時期	対象学年	内容	目的と結果の活用
アセスメント科目のルーブリック評価	卒業時	<学部> 4年次	卒業時にアセスメント科目を通して学科DPの達成度を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員、学生双方で学科DPの達成基準を認識し、評価内容を共有する。 ・学生自身が卒業時に身につけた具体的な力を説明できるようにする。 ・学位授与方針に示した学修成果を可視化する。
全国学生調査	12月中旬～1月下旬	<学部> 2年次 4年次	学生目線から大学教育や学びの実態を調査する。	<ul style="list-style-type: none"> ・在学生の学修時間・学修行動を把握する。他大学との比較し、本学の在学生の特徴・傾向を把握する。 ・集計結果は各学科に提供する。学科等ごとにカリキュラム等の教育活動の見直しに活用する。
学生の達成度自己評価および授業改善のためのアンケート（授業アンケート）	前期：7月 後期：12月～1月	<学部> <大学院> 全学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が授業の到達目標の達成度を自己評価する。 ・授業方法や進め方等の適切性を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価による各科目の達成目標の達成度及び満足度を把握する。授業の進め方や改善点に関する意見を集める。 ・学科、専攻ならびに科目を所管する委員会にデータを提供し、各授業担当者が授業改善に活用するとともに、学科等ごとにカリキュラム等の教育活動の見直しに活用する。
学生の達成度自己評価および授業改善のためのアンケート（中間アンケート）	前期・後期共に3、4回目の授業終了後	<学部> 全学年	授業方法や進め方等の適切性を評価する。	進行中の授業に対し授業方法などに関する意見を集め、その結果を踏まえて各授業担当者が直ちに授業改善に努める。授業の改善点を早期に発見し、受講生に資するように改善を図る。
卒業時アンケート	1月下旬～2月中旬	<学部> 4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・学科DP及び基盤的科目群DPの達成度を学生自身が自己評価する。 ・学位プログラムや本学が提供する教育サービスや施設等に対する満足度を調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価による学科DP及び基盤的科目群DPの達成度を把握し、各学科ならびに基盤的科目群を所轄する委員会がカリキュラムなどの見直しに活用する。必要に応じて学科等の3ポリシーの見直しに活用する。 ・本学が提供する教育サービスの向上に活用する。
修了時アンケート	1月下旬～2月中旬	<大学院> 博士前期2年 博士後期3年	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻DPの達成度について学生が自己評価する。 ・学位プログラムや本学が提供する教育サービス等に対する満足度を調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価による専攻DPの達成度を把握し、各専攻がカリキュラムなどの見直しに活用する。必要に応じて専攻3ポリシーの見直しに活用する。 ・本学が提供する教育サービスの向上に活用する。

卒業生のキャリア (就職・進学等)の状況の把握と教育活動等の改善のためのアンケート調査	8月上旬～9月上旬	<学部> ・卒業生 ・卒業生が就職した企業	本学卒業生が在学時の学位プログラムやその他の本学での教育サービスの有効性・適切性を調査する。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後に在学中にうけた教育を振り返り、在学中に身につけた資質・能力がどのように役立っているか等を明らかにする。 ・集計結果を全教職員で共有するとともに、各学科及び基盤的科目群を所轄する委員会等において学位プログラム、カリキュラム及びその他の教育活動の改善で活用する。 ・必要に応じて集計結果を在学生にも周知し、学習意欲の向上を図る。
PROGテスト	1年次：4月中旬～10月上旬 3年次：9月上旬	<学部> 1年次 3年次	社会で求められる汎用的な能力・態度・志向を測定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身が汎用的な能力・態度・志向等に関する現状を客観的に把握する。 ・測定結果の解説会で、結果の正しい捉え方を知り、これからの自分の成長にとって必要なことを理解する。
マイステップ@JWU	4月～5月 (目標設定・振り返り入力時期)	<学部> 全学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身で目標設定と振り返りを行い、継続的かつ客観的に自己評価を行う。 ・アドバイザー教員が目標・振り返りの内容を確認し、フィードバックを行う。 ・入学から卒業までの大学生活・活動を記録する(ショーケース型ポートフォリオ)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとに目標を決めそれを言語化し、さらにその振り返りを学生自身が行う。これは、本学の教育理念である「三綱領」の一つ「信念徹底」の実践の一環である。 ・アドバイザー教員によるフィードバックによって、 ・正課の活動のみならず課外活動や大学生活で得た成果を、自分の成長に結びつけた記録として蓄積させる。卒業時に自分が身につけた力を振り返る際の根拠として活用する。 ・蓄積した記録を卒業時に持ち出すことができる。
「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づく評価	専攻により異なる	<大学院> 最終学年	専攻ごとに定められた「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき研究指導者が評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員、学生双方で専攻DPと学位論文審査基準の連関を認識し、評価内容を共有する。 ・学生自身が修了時に身につけた具体的な力を説明できるようにする。 ・学位授与方針に示した学修成果を可視化する。